

見積もりから原価管理まで 業務の一元管理を行うとともに 書類管理の効率化も促進

DX SMILE✓
統合パッケージ

DX eValue✓
統合パッケージ



『SMILE V 2nd Edition 会計』をはじめとした製品を組み合わせ、見積書作成から原価管理、請求、入金処理までを一気通貫

愛知県小牧市に本社を構える近藤設備設計株式会社は、バイオマスボイラや産業廃棄物焼却プラントなどの提案、設計から製造、建設、メンテナンスまで自社で一貫して手がけるプラントエンジニアリング企業だ。基幹業務システム『SMILE V 2nd Edition 会計』『プロジェクト原価管理業務オプション』『SMILE V 2nd Edition POWER見積』を組み合わせた活用で、これまで個別に運用していた業務の一元管理を実現。残業時間の削減や決算業務のスピードアップといった顕著な導入効果を上げている。

導入の狙い

- ・業務処理の整理を図り、データ手入力を削減したい
- ・電子帳簿保存法、インボイス制度への対応

導入システム

- ・DX統合パッケージ
『SMILE V 2nd Edition 会計』
『SMILE V 2nd Edition POWER見積』
『eValue V 2nd Edition ドキュメント管理』
- ・開発ツール
『SMILE V 2nd Edition Custom AP Builder』

導入効果

- ・見積もりから会計処理、原価管理まで、一元管理を実現
- ・残業時間の大幅削減
- ・決算業務のスピードアップと明確化

USER PROFILE

近藤設備設計株式会社

【業種】製造業

【事業内容】プラント全体の総合設計から、各設備の設計、製造、建設、メンテナンス

【従業員数】44名(2024年12月現在)



2024年12月取材

プラントの全製造工程を 自社で一貫して対応

1963年に創業されたプラントエンジニアリング企業である近藤設備設計株式会社。当初は大手企業のOEMを主体として、焼却炉や木屑焚ボイラなどの製造・販売を手がけていた。その後、全国の商社を通じて、各種ボイラや産業廃棄物の焼却プラントなどの、さまざまな設備製造を請け負いながら業績を拡大。熱エネルギーに特化した事業展開で、確固たる基盤を築いている。

同社の最大の強みは、プラント建設にまつわる相談から計画、見積もり、設計、製造、工事、メンテナンスに至るすべての工程を自社で総合プロデュースができる、という点だ。複数の設備の組み合わせによって構成されるプラントは、多くの協力会社によって建設されることが一般的であり、このように一連の作業を一社で行える企業は、全国でもほかに例がないという。

新規プラントの建設では、それぞれ焼却するものや設置状況が異なるため、官庁への申請や住民説明などの実施が必要だ。そのため、計画から施工完了までに10年近くかかることもある。立場の異なる人々とコミュニケーションを取るために必要な折衝力も、豊富な経験に裏付けされた技術力と同様に、重要なスキルだ。

近年は、ダイオキシンの発生を抑制する高性能な焼却プラントの需要が急増している。その一方で、資源リサイクルの観点からも、木質（もくしつ）系廃材などを低コストで効率良く燃焼させるバイオマスボイラの需要も継続的に存在している。その両方の技術を持ち合わせる同社は、業績を着実に伸ばしている。

専務取締役の日比野 佐



本社と同じ敷地内に工場があり、産業廃棄物焼却処理装置やボイラ、集塵装置などさまざまな装置を製造している

登美氏は、「お客様から問い合わせをいただいた案件は、基本的に断りません。やってみないとわからないこともあります。お客様と一緒に考えながら前向きに取り組む、その姿勢が高く評価されて、今日までの多くのお客様との長年にわたる継続的な取引に結び付いているのだと思います」と語る。

個別のバラバラ運用から 一気にシステム化へ

かつて同社では、市販の会計システムを利用していた。同システムは売り上げなどの基本的な会計処理は行えるのだが、見積書の作成や発注管理、原価管理といった処理についてはExcelで別途管理が必要であった。そのため、同じデータの

手入力が何度も必要で、業務が拡大するにつれて大きな負担になっていた。

さらに、見積書は営業が個別に作成していたので、単価に一貫性がなく、社内共有もできていなかった。原価管理は専用のソフトを活用していたが、機能が簡易的で処理速度が非常に遅いため使いにくかったそうだ。

そのような理由から、一連の業務を一元管理できるシステムの導入を本格的に検討開始。日比野氏が各種セミナーなどに積極的に参加し、5年ほど自社の業務内容に合ったシステムを探していた。

「OSKさんの『SMILE』シリーズは、前からよく耳にしていたので気になっていました。ですが、こちらの認識不足で取り扱いが販売管理だけだと勝手に思い込んで

専務取締役
日比野 佐登美氏

「『SMILE』シリーズの導入により、Excelなどを使って個別に運用していた煩雑な業務が一元化されました。OSKさんはサポート体制も充実しているので、安心して運用できます」



総務部 総務課
河野 優飛氏

「『SMILE』シリーズは、誰でも直感的に操作ができるシンプルな仕組みになっているので、保守業務も円滑に行えます。実際、これまでに困ったトラブルは一度もなく、順調に稼働しています」



いて、候補から除外していたのです。ところがあるとき、販売会社のNCS&Aの営業の方から、『SMILE』ならば、見積もりから原価管理までの全業務を一元管理できるとお聞きして、最有力候補に浮上しました」(日比野氏)

その後、ITベンダー5社のコンペで、最終的にNCS&Aが提案した『『SMILE BS 2nd Edition 会計』(以下、『SMILE BS2 会計』)を中心としたシステムを選定。『プロジェクト原価管理業務オプション』や『SMILE BS 2nd Edition POWER 見積』(以下、『POWER見積』)、専用の開発ツール『SMILE BS 2nd Edition Custom AP Builder』(以下、『CAB』)を併用し、業務の一元管理を図る取り組みに着手した。

「NCS&Aさんの『SMILE BS2 会計』をベースにした提案内容が、5社のなかで一番的を射ていました。『SMILE』シリーズは拡張性に優れていること、弊社が実現したかったことをすべてワンストップで行えることが最大の決め手となりました」(日比野氏)

見積書から会計仕訳作成まで『SMILE』がサポート

新システムの導入は2014年だが、以前の会計システムの利用方法の関係でデータ移行が難しかったため、新規データ入力からの運用としている。そして、顧客からの過去の案件の問い合わせに対応できるようにと、約2年間の新旧システムの並行稼働期間を確保し、そのうえで、新システムに一本化した。

入力方法も大きく変わった。まず営業担当者は『POWER見積』で見積書を作成する。受注が確定したらその見積もりデータを『SMILE BS2 会計』の『プロジェクト原価管理業務オプション』に取り込み、原価データの入力や売上高の計上、請求書作成や入金処理までの一連の処理を



本社の工場と倉庫は隣接している。製品製造に必要なあらゆる部品をここに取りそろえている

行う。その結果は、『SMILE BS2 会計』の仕訳伝票として作成されるので、二重入力が不要の効率的な運用を実現している。さらに『CAB』を利用して調達関連の帳票を作成し、Excelを使用することなく従来とほぼ同じ書式で業務が行える工夫を施した。また、作業日報入力により従業員の勤怠管理も可能となっている。

2023年には、『SMILE V 2nd Edition 会計』へ移行し、他の製品も同様にバージョンアップを実施。同じタイミングで、電子帳簿保存法やインボイス制度への法改正対応のために、『eValue V 2nd Edition ドキュメント管理』と『タイムスタンプオプション』も追加導入した。設計図面等の管理はこれまで同様にファイルサーバーで行うが、請求書や納品書といった取引書類を対象としている。

社内システムの運用管理を担当している総務部 総務課の河野 優飛氏は、実は前職で『SMILE』シリーズを経験していたこともあり、操作上の不安は少なかったという。「私はマスターの整備や利用者の権限設定など、管理者機能と呼ばれる箇所を担当しています。『SMILE』シリーズは、このデータはマスターのどこに登録すればいいのか、という操作がわかりやすいので、初めての利用でも特に苦労すること

なく運用できると思います。もしも不明点があった場合は、サポートセンターに電話で聞いていますが、その日のうちに解決できるので、その点でも助かっています」と導入メリットを実感している。

新システムが新たな効果を生み出す

『SMILE』シリーズ導入によるもっとも顕著な効果は、Excelなどを使って個別に運用していた業務が一元化されたことだ。複数回のデータ入力が不要となり、業務効率が飛躍的に向上、残業時間削減にもつながっている。

従来の会計システムに対する不満のひとつが、月次決算時に用途不明な数字の計上がされている場合があることであった。その調査に多くの時間と手間がかかることもストレスだったという。しかし、プロジェクト単位に会計管理を行うことで仕訳の数字の根拠が明確となり、決算業務は格段に楽になった。

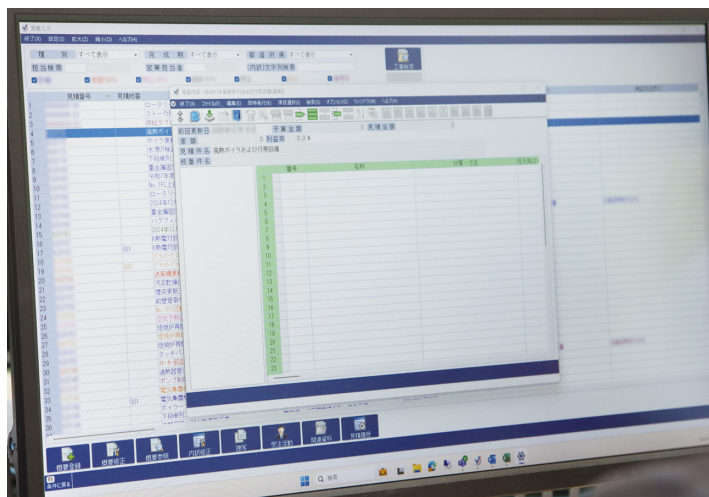
新システムは他の社員からも「使いやすい」と好評だ。営業担当者が自分で必要なデータを検索して抽出し、営業会議の資料として作成しており、日々の業務で当たり前のように活用されている。

電子帳簿保存法やインボイス制度への

対応のために新たに導入した『eValue V 2nd Edition ドキュメント管理』は、請求書などの帳票類の保管に利用されている。今後、帳票の種類に応じたフォルダーの振り分けなどの社内の運用ルールを定めて、より効率的に管理できる体制を整えていく計画だ。

「操作面でわからないことや困ったことがあるたびに、OSKさんのサポートセンターに電話でお聞きしていますが、いつも詳しく教えてくださいるので、もやもやしていた頭の中がスッキリします。弊社の東京営業所はOSKさんの本社に近いので、直接ご相談する場面もありました。操作方法だけでなく考え方についても納得いくまで丁寧に説明いただけるので、本当に助かっています」(日比野氏)

現在は、経費精算の申請・承認業務は紙ベースで行っているが、出張時でもノートPCを利用して速やかに承認業務ができるように、今後の『eValue V 2nd Edition ワークフロー』導入も視野に入れている。同社はさらなるIT活用を推し進め、業務効率化を推進していく考えだ。



『SMILE』シリーズの導入は、業務の効率化とともに、残業時間の削減も実現させている



近藤設備設計株式会社のホームページ

<https://www.kondosetsubi.co.jp/>

お問い合わせ